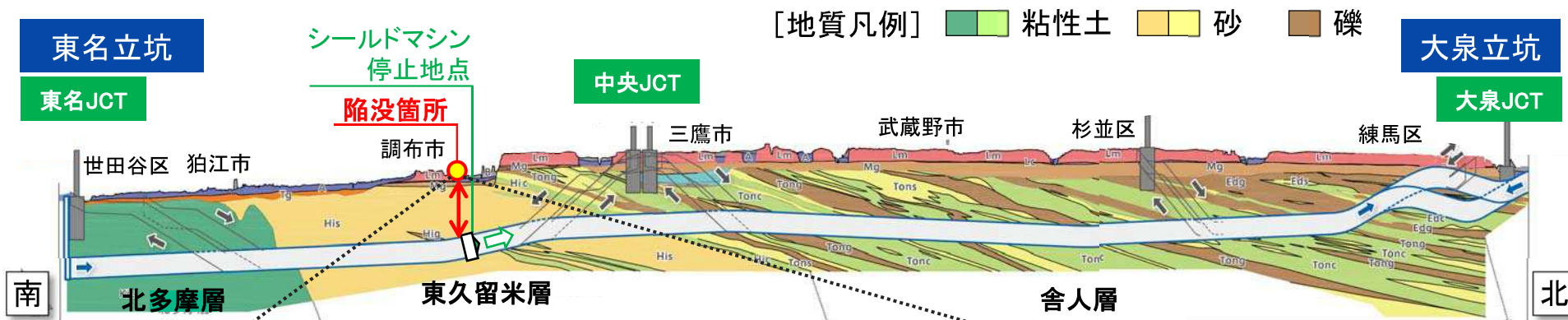


○陥没事故の経緯

令和2(2020)年10月18日、調布市東つつじヶ丘2丁目にて、道路の陥没が発生



10月18日9:30(水たまり)



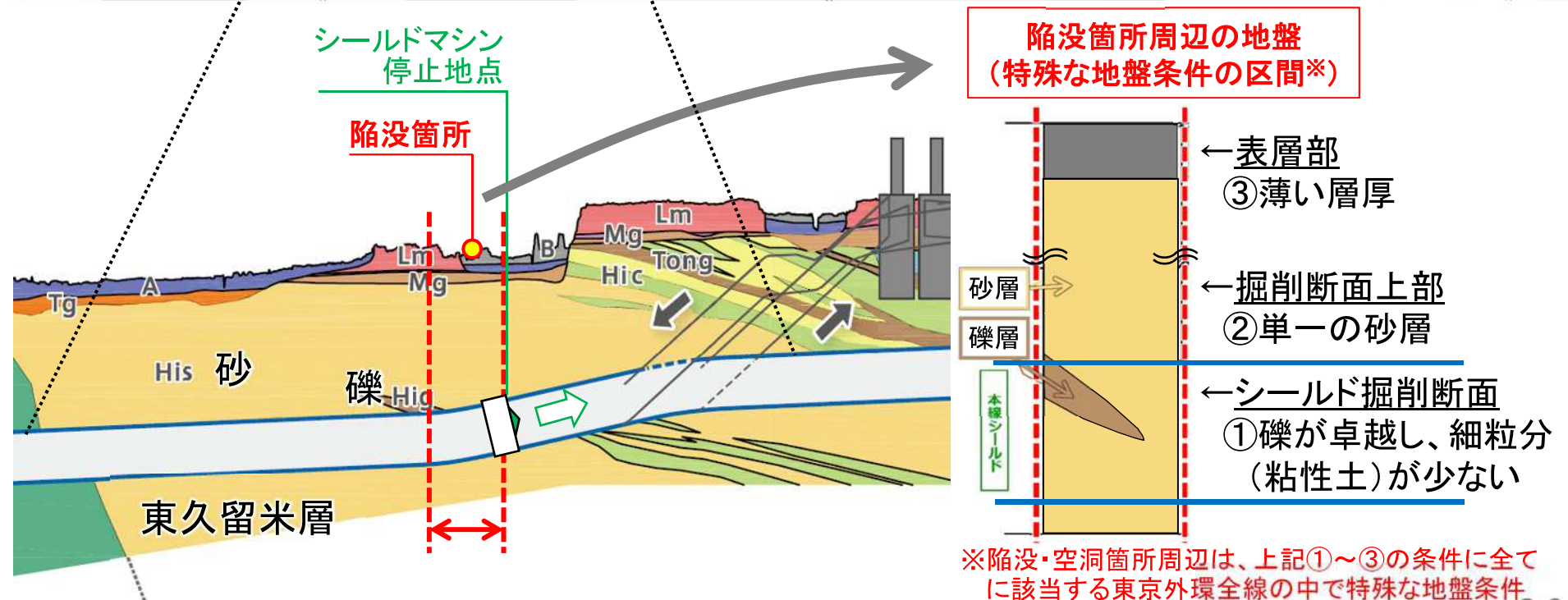
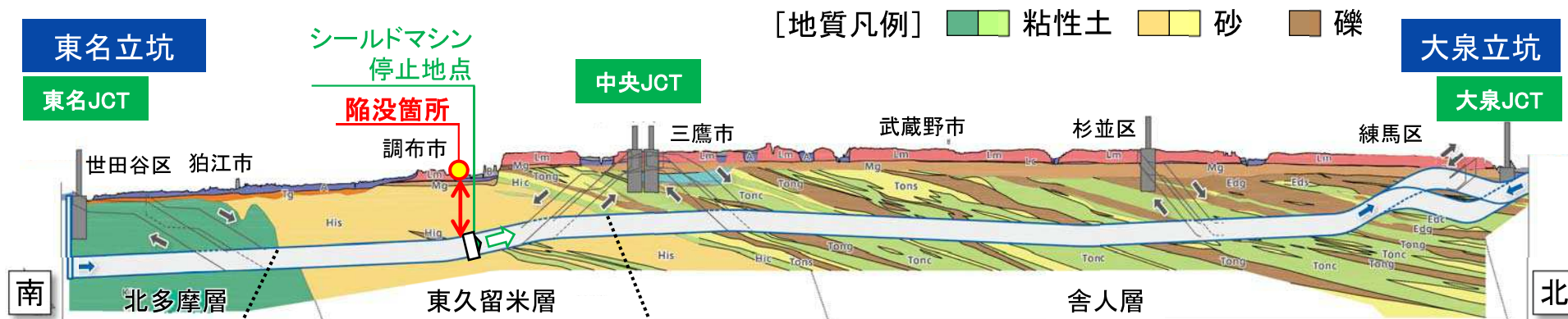
10月18日11:50(舗装亀裂)



10月18日12:30(陥没発生)

○陥没箇所付近の地盤

この陥没等は、上総層群東久留米層（締まった砂を主体とした地層）において発生



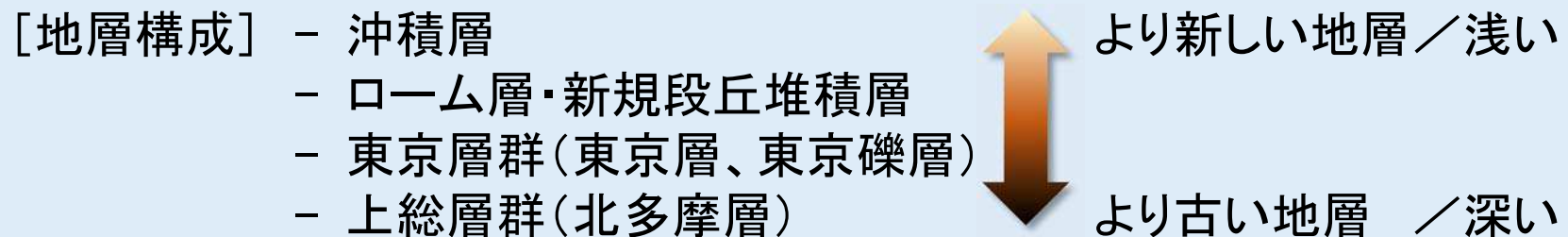
※陥没・空洞箇所周辺は、上記①～③の条件に全てに該当する東京外環全線の中で特殊な地盤条件

説明内容

1. 中央新幹線計画の概要
2. シールドトンネル工事とは
3. 東京外かく環状道路での陥没事故について
4. 中央新幹線のシールドトンネル工事の安全について
 4. 1 東京都区内の計画路線の地質
 4. 2 工事をより安全に実施するための取組み
5. 計画路線周辺にお住まいの皆様に安心してお過ごしいただけるように
 5. 1 工事の安全を確認する取組み
 5. 2 生活環境の保全に関する取組み
 5. 3 工事情報を適時お知らせする取組み
6. 今後について
7. ご連絡先

東京都区内の計画路線の地質概要

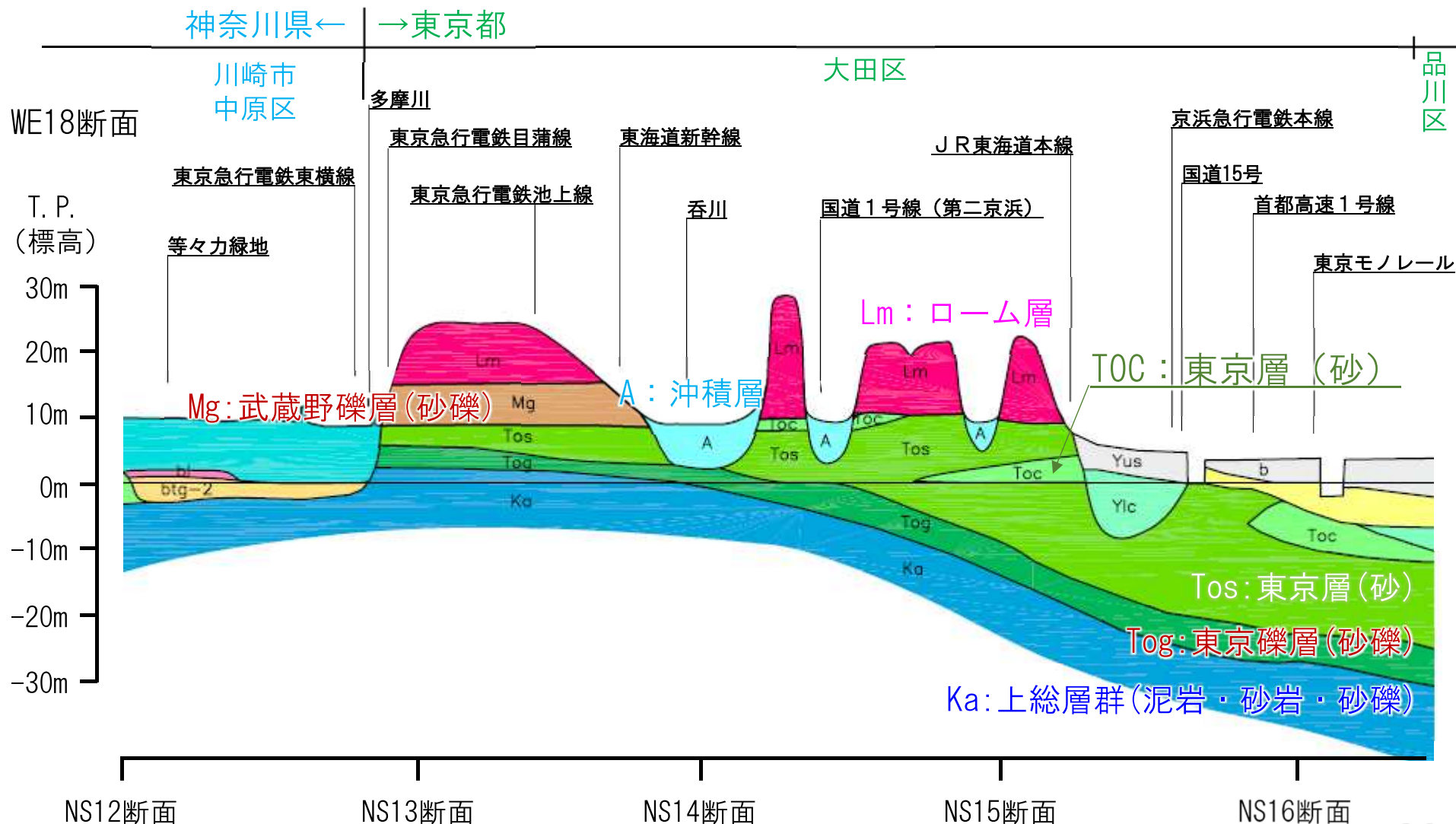
- ・ 東京の地質については、これまでに数多くの学術的調査がなされています。
- ・ 中央新幹線の計画にあたっては、まずは既存の研究・報告を確認しました。
例) 国土交通省の土地分類基本調査、東京都の東京地盤図 など
- ・ 調査を通じて、東京都区内の計画路線付近の地質構成は、概して以下のとおりであり、中央新幹線のトンネルを掘る深さには、固く締まった地盤の「上総層群北多摩層」が厚く存在することが分かっています。



- ・ 上総層群北多摩層は、主に外洋や半深海で堆積した固結シルトから成り、所々で細かい粒の砂の層が介在する地層です。
この層の上面は、一つ上にある「東京礫層」とともに、東京都区内にある高層建築物の基礎を支える支持地盤となっています。

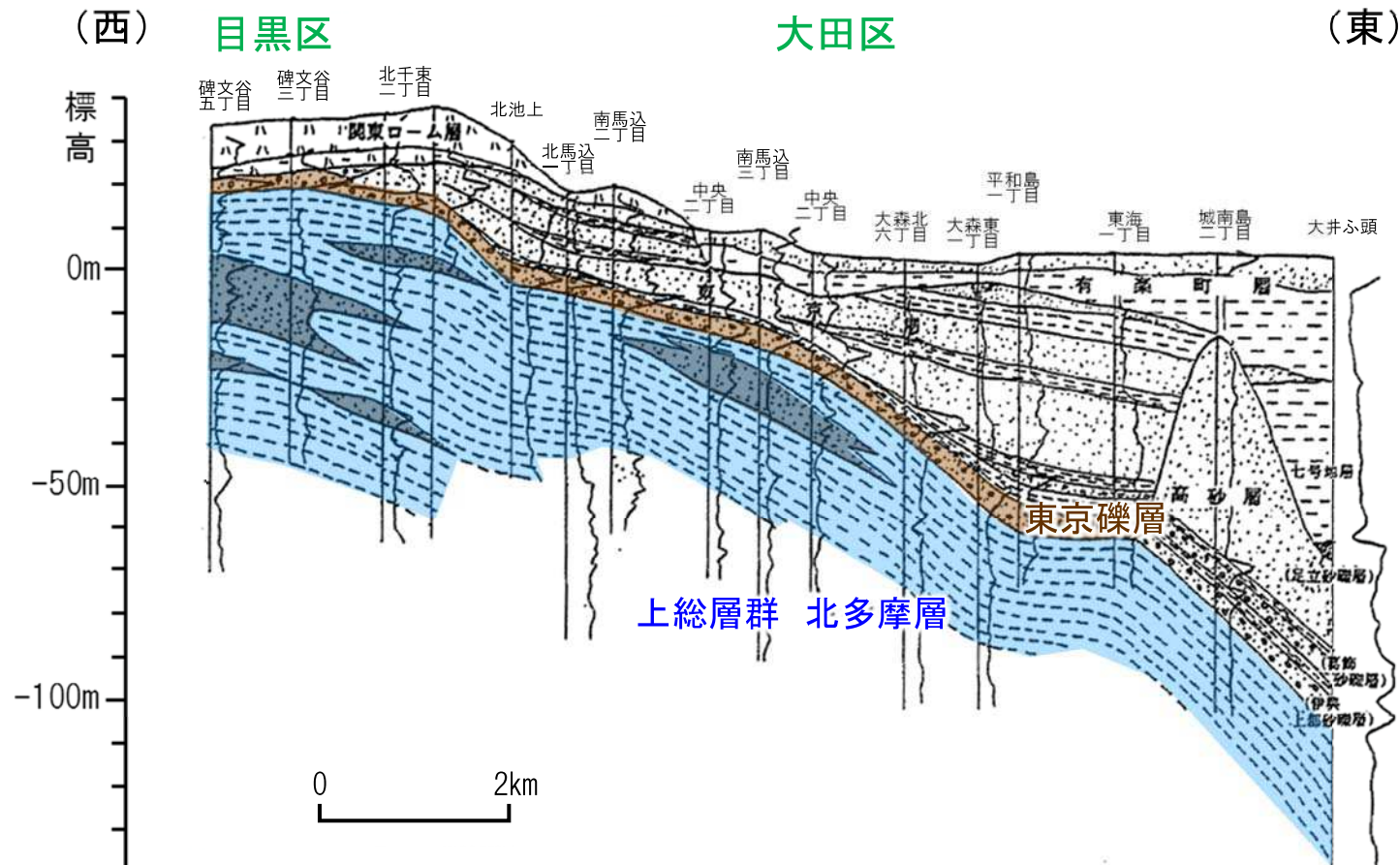
既存調査(国土交通省土地分類基本調査)のレビュー

国土交通省の土地分類基本調査(垂直調査)により、東京都区部の地下地質の重なり具合や各地層が存在する大まかな深さを確認しました。



既存調査(東京都の大深度地下地盤調査)のレビュー

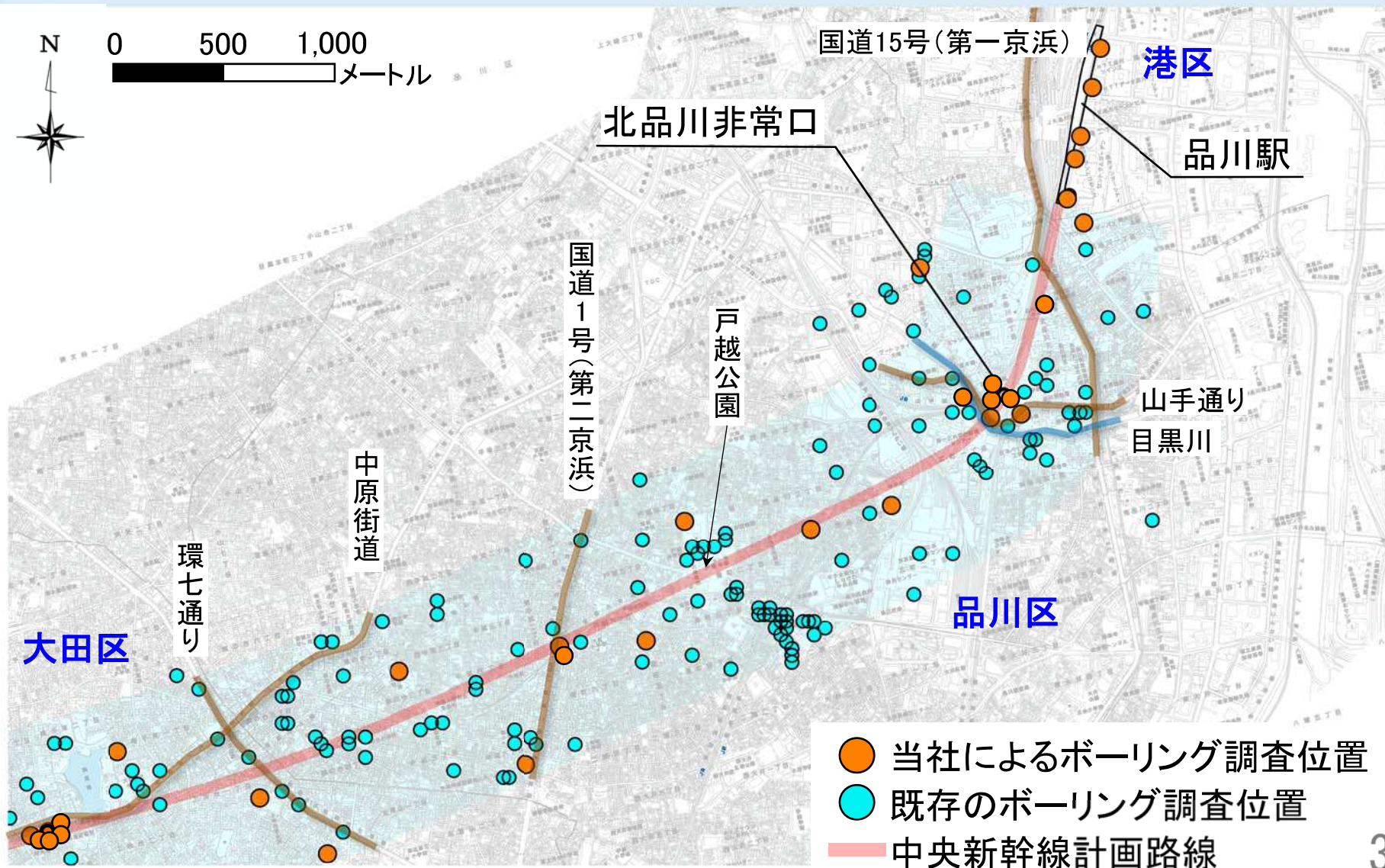
東京都の大深度地下地盤調査では、地下深部の地層の重なり具合いや地質構造等が報告されています。この資料により、計画路線周辺では「東京礫層」の下に「上総層群北多摩層」が厚く広く分布している状況を確認しました。



目黒区碑文谷五丁目付近から大井ふ頭付近にかけての東西断面図
(大田区付近における東京層とその下位及び上位層との層位関係を表す)

ボーリング調査結果による地質の把握(品川駅～環七通り)

さらには、既存のボーリング調査の結果を広く収集するとともに、自らもボーリング調査を実施して地盤の物性値等を詳細につかみ、計画路線周辺の地質の状況を把握してきました。



ボーリング調査結果による地質の把握(国道1号～等々力非常口)

さらには、既存のボーリング調査の結果を広く収集するとともに、自らもボーリング調査を実施して地盤の物性値等を詳細につかみ、計画路線周辺の地質の状況を把握してきました。

